

## “短かった梅雨と夏本番”

校長 西田和弘

観測史上最短最速の今年の梅雨が、あっという間に過ぎ去っていきました。1学期もあと3週間を残すばかりです。学校生活も徐々にですがこれまでの姿に近づきつつあります。

今この時に考えなければいけないことは、コロナ感染防止対策と熱中症対策との関係ではないでしょうか。いわゆる「マスクの使い方」についてです。学校では次のように子どもたちに指導をしています。

＜マスクを必要としない場面＞

- 1、登下校時      2、体育の授業      3、部活動

学校においては継続的な指導を続けていますが、「マスクを外せない」子どもたちがいるのが現状です。6月の生徒集会で「マスクの使い方を周りの人と考えてほしい」と伝えました。周りの人とは、友だち、保護者の方などです。コロナと熱中症の危険性を単純に比較することは難しいことですし、これまでの習慣や感染の不安、周りの人の視線など、マスクを外せない理由も理解できます。本校では、「自分の身は自分で守る」力を養うために防災訓練を実施しています。この考え方はコロナと熱中症との関係においても同じだと考えています。だからこそ、マスクを必要としない場面とマスクを必要とする場面を自分自身がしっかりと考えて少しずつよいので行動に移してほしいと思います。

さて、我が家の夏の風物詩であるメダカ飼育が最盛期を迎えています。親メダカのおなかが大きくなり、毎日丈夫な卵を産んでいます。小さな卵から、今日は1匹、次の日は3匹と赤ちゃん（針子）が誕生し、頼りなく泳ぎながらも懸命に成長しています。同じ親から生まれ育った稚魚たちを観察してみると、体の色が違ったり、大きさが違ったり、性格（食いしん坊や臆病など）が違う子がいます。メダカを日々観察し、メダカとの対話を心がけながら飼育していますが、手を加えすぎたことで体調を崩したり、逆に世話をサボりすぎて成長が進まなかったりする場合があります。それでも太陽の子であるメダカたちは、その恵みをもらいながら、それぞれの個性を発揮し愛らしい姿に変わってくれます。少しずつ成長するメダカの姿と生徒たちの姿が重なって映るのは私だけでしょうか。

“**Let's Try!** 実践躬行 **MEIJIKE**” を合言葉に！

彩和学園 【めざす子ども像】

「今と未来、社会でいきる自分らしさを」～すすんで「挑戦」 つづける「継続」 つながる「共生」～